

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)『大学院要項』に総合政策研究科の「人材の養成・教育研究上の目的」を明記している。なお、2021年より総合政策研究科委員会および教学改革推進会議(現内部質保証推進会議)の審議・承認を経て、教育研究上の目的について、博士前期課程、博士後期課程それぞれ別々に表記するよう改定した。				
(2) 大学全体の理念・目的に基づいて、総合政策研究科の「人材の養成・教育研究上の目的」を研究科委員会にて策定し、明記している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年度 大学院要項』p4「人材の養成・教育研究上の目的」				
愛知学院大学ホームページ「建学の精神」、「教育理念・目的及び人材の養成・教育研究上の目的」 (https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/ideal.html , https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に基づき、総合政策研究科の審議・承認を経て、人材育成、教育研究上の目的を明記している。				
(2)				
・総合政策研究科委員会の審議、承認を経て、大学院要項および大学ホームページに総合政策研究科の「人材の養成・教育研究上の目的」を明示し、教職員および学生に周知するとともに、社会に公表している。				
・『大学院要覧2023』のp26-28には、受験生や一般の方わかりやすい表現で「総合政策研究科」の目的を明記している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」				
『2023年度 大学院要項』p4「人材の養成・教育研究上の目的」				
愛知学院大学ホームページ「人材の養成・教育研究上の目的」(https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/)				
『大学院要覧2023』p26-28				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	特記事項なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) ・総合政策研究科内に研究科自己点検・自己評価委員会を設置し、定期的な点検・評価体制を構築している。2023年度は2回開催し、「本学の諸活動における対応状況」、「自己点検・評価シート」の作成等について審議を行った。 ・同じく研究科FD委員会を設置し、全専任教員が委員として参加し、教務内容、研究指導について点検・評価体制を構築している。同委員会ではディプロマポリシー(学修成果の測定方法、達成目標)、アセスメントプラン、必修科目の授業プログラム、研究指導計画の見直し等を行った。 ・併せて研究科委員会でも議題に応じてFDの議論をした他、研究科FD研究会でもFD活動を推進した。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
総合政策研究科委員会議事録(自己点検・自己評価関連、FD関連)				
総合政策研究科FD委員会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。 自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	特記事項なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準2」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
〔1〕 ・総合政策研究科にてディプロマポリシーを制定し、大学ホームページおよび『大学院要項』において公表している。 ・ディプロマポリシーとして《学際性》、《公開性》、《課題解決力》等の達成項目を明示している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学ホームページ「ディプロマポリシー」(https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/)				
『2023年度 大学院要項』p7、p9「ディプロマポリシー」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な連関性がありますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 総合政策研究科委員会にてカリキュラムポリシーを定め、大学ホームページ及び大学院要項にて公表している。カリキュラムポリシーとして科目の【内容】、教育の【方法】、学修の【評価】を明示している。				
(2) 大学院要項にてディプロマポリシー(DP)の下にカリキュラムポリシー(CP)を明記している。ディプロマポリシーに基づき、カリキュラムポリシーの科目の内容と方法とを具体的に明記している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
大学ホームページ「カリキュラムポリシー」(https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/)				
『2023年度 大学院要項』p15、p18「カリキュラムポリシー」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づき、研究科FD研究会、研究科FD委員会において授業科目、特に必修科目・選択必修科目(総合政策概論、社会システム基礎論、人間科学基礎論)の内容、構成について見直しを行っており、教育課程との整合性を取っている。				
(2) 毎年度の「授業科目・担当教員・履修方法」の見直し時に、研究科委員会、研究科FD委員会にてチェックを行っている。また、教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切である。				
(3) 個々の授業科目の内容・方法とカリキュラムポリシーとの整合性を保つために、毎年度のシラバス作成時に専任教員同士でシラバスの相互チェックを行い、相互の改善指導を行っている。				
(4) コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育を行っている。2022年度、研究科FD委員会を中心に「研究指導計画書」の改定を行い、本年度も研究科FD委員会、研究科委員会で内容を審議、確認した。				
(5) キャリア支援科目を設置し、学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年度 大学院要項』p99-p101「総合政策研究科 履修科目・担当教員・履修方法」				
『愛知学院大学大学院要覧2023』p26-p28				
『2023年度 大学院要項』p33-p34「研究指導計画書(総合政策研究科)」				
シラバスチェック第三者報告書				
総合政策研究科委員会議事録				
総合政策研究科FD委員会議事録				
総合政策研究科FD活動報告書				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置(授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等)を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)は適切ですか。 また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。 (教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等)	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 単位の実質化を図るために、シラバスにて、レポートの提出、予習復習、評価等を明記している。				
(2) 各科目のシラバスに、科目のねらい、到達目標、授業の内容・計画、評価方法・基準、授業外の学修等を明示している。毎年のシラバス作成時に、専任教員同士でシラバスの相互チェックを行い、相互の改善指導を行っている。				
(3) シラバスにおいて、学生の積極的な発言などの主体的な参加を促し、評価基準とする旨を明記している。				
(4) ・大学院要項にて「研究指導計画書(総合政策研究科)」を明記している。指導教員を中心に、この計画に沿った指導を行っている。 ・博士前期課程の学生による修士論文中間報告会を開催し、全専任教員が参加し、研究科全体で研究指導を行う体制をとっている。 ・今年度、研究科FD研究会、研究科FD委員会にて「研究指導計画書」について議論し、実質化の方策を検討した。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年度 大学院要項』p33-p34「研究指導計画書(総合政策研究科)」				
総合政策研究科シラバス(https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbbsshr.do)				
シラバスチェック第三者報告書				
総合政策研究科委員会議事録、FD委員会議事録、FD活動報告書				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	A
		(5)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するために どのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6)	適切に学位授与を行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 大学院学則第6条に単位制度が定められホームページにて公開しており、シラバスに明示された評価方法・基準に基づき成績評価を行っている。 (2) シラバスに成績の評価基準を明記している。 (3) 大学院学則第13条に修了要件を明記しており、ホームページにて公開している。 研究科FD委員会を中心に、博士前期課程における早期修了のための要件、手続きの明文化に向けた作業を進め、研究科委員会で審議、承認した。(この要件・手続きは2024年度入学者に対して、入学時オリエンテーションの場でも説明する予定である) (4)『2023年度 大学院要項』p41「学位論文審査基準(総合政策研究科)」に明記している。 (5) 学位論文提出のための単位取得状況を研究科委員会で判定している。学位論文審査のために主査・副査合わせて3名以上の審査員を研究科委員会で任命している。審査委員は提出論文の査読、提出者への口頭試問を行い、学位論文の審査を行う。 論文博士審査における学力審査方法について、研究科入試検討委員会、研究科委員会の審議を経て、策定した。 (6) 研究科委員会にて、学位論文審査結果および単位修得状況を判定基準にもとづいて審査し、大学院委員会で審議の上、最終的には学長が学位を授与している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
総合政策研究科シラバス(https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbbshjr.do)				
大学院学則別表7(https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/rules/rules-a.pdf)				
『2023年度 大学院要項』p41「学位論文審査基準(総合政策研究科)」				
総合政策研究科委員会議事録(学位論文審査関連)				
大学院委員会議事録(学位論文審査関連)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。 (特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 大学院要項に「学位論文審査基準」を明記している。また、修了判定の参考に学位論文評価とディプロマポリシーに則したルーブリックにより指標を設定している。				
(2) 論文審査時に、論文査読を行い、審査委員全員による口頭試問ではルーブリックを参照して審査を行っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年度 大学院要項』p41「学位論文審査基準(総合政策研究科)」				
2023年度総合政策研究科FD活動報告書				
総合政策研究科ルーブリック				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)各講義において授業アンケートを実施している。また、修了者に対しても修了時にアンケートを実施する体制となっている。				
(2)アンケート結果や学生の学修状況を研究科委員会や研究科FD委員会で共有し、カリキュラムおよび各科目の内容について見直しを図っている他、研究科自己点検・自己評価委員会にて点検・評価をしている。その成果は2021年度、2022年度の2度にわたるカリキュラム改定にも強く反映されている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
授業アンケート、修了時アンケート				
総合政策研究科委員会議事録(自己点検・自己評価関連、FD関連)				
総合政策研究科FD委員会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	特記事項なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準4」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき、アドミッションポリシーとして、大学ホームページ等で公表している。				
(2)入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえ、アドミッションポリシーを設定し、大学ホームページ等で公表している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学ホームページ「アドミッションポリシー」(https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/)				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

総合政策研究科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定し、学生募集要項に明記している。				
(2) 研究科委員会内に入試検討委員会を設置している。入試検討委員会の検討案を踏まえ、研究科委員会で入試問題作成者・面接担当者を複数選任し、筆記試験・面接を実施している。入試問題作成者、面接担当者の合議を踏まえ、研究科委員会にて入試の可否を判定し、最終的には大学院委員会にて判定内容の審議を行っている。				
(3) 研究科委員会内に入試検討委員会を設置している。入試検討委員会の検討案を踏まえ、研究科委員会で入試問題作成者・面接担当者を複数選任し、筆記試験・面接を実施している。入試問題作成者、面接担当者の合議を踏まえ、研究科委員会にて入試の可否を判定し、最終的には大学院委員会にて判定内容の審議を行っている。				
(4) 研究科委員会内に入試検討委員会を設置している。入試検討委員会の検討案を踏まえ、研究科委員会で入試問題作成者・面接担当者を複数選任し、筆記試験・面接を実施している。また、傷病等により不自由を有する受験生から申し出があった際には、所管課である入試センターを介して、状況等を確認の上、受験生の希望する研究科との協議調整を行うことで、公平な対応にあたることとしている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
学生募集要項・再入学試験要項(総合政策研究科)				
総合政策研究科委員会議事録(2023年度委員会名簿、入試関連)				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

総合政策研究科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 ＜学士課程＞ ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 ＜修士課程、博士課程＞ ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) ・現在、博士前期課程は定員12名に対し在籍学生1名で、在籍学生数比率1/12=0.08である。多様な学生のニーズに応えるべく、2022年度より大幅なカリキュラムや入試制度の改定などを行った。この結果、2024年度入試では3名の合格者が出るなど、緩やかではあるが、改善の方向に向かっている。引き続き、研究科内に設置している将来構想委員会を中心に、組織の改編や他研究科との連携も含めた抜本的な改革に向けた検討を進めている。 ・博士後期課程は定員12名に対し在籍学生0名である。博士後期課程については研究科内の将来構想委員会、研究科委員会で検討した結果、2024年度からの募集停止を決定し、大学院委員会でも正式に審議・承認された。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
学生募集要項・再入学試験要項(総合政策研究科)				
『愛知学院大学大学院要覧2023』p26-p28「総合政策研究科」				
総合政策研究科委員会議事録(博士後期課程募集停止関連)、大学院委員会議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) ・入学者受け入れの方針に基づき、適切な試験科目を選定し、学生の条件を評価し、受け入れを行っている。2022年度より本学4年次生対象の推薦入試を春季入試のみへの変更や3年次生対象入試の廃止など、一部入試制度の改廃も行った。 ・研究科内に設置している入試検討委員会、将来構想委員会を中心に、点検・評価を行っている。				
(2) ・研究科委員会および研究科入試検討委員会において、入試条件・入試試験内容・面接方法などについて議論し、次回入試の参考としている。定期的に進学相談会を開催している。 ・研究科内に設置している将来構想委員会を中心に、組織の改編や他研究科との連携も含めた抜本的な改革に向けた検討を進めている。				
【根拠資料名】上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学ホームページ「アドミッションポリシー」(https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/)				
学生募集要項(総合政策研究科)				
総合政策研究科委員会議事録(自己点検・自己評価、将来構想関連、入試関連)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	特記事項なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準5」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
B

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針(分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)総合政策研究科委員会において「総合政策研究科の教員組織の編制に関する方針」を策定し、研究科委員会の承認を経た後に大学院委員会の承認を得るといった手続きを踏むこととなっている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
総合政策研究科の教員組織の編制に関する方針				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師又は助教）の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置（国際性、男女比等も含む） ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 総合政策研究科の専任教員数は設置基準を充足し、適切である。				
(2) カリキュラム及び開講科目に応じて、教員組織編制方針に沿って、総合政策学部教員より、大学院担当教員への任用を行っている。				
(3) 研究科委員会、研究科FD委員会にて、翌年度の研究科カリキュラム、開講科目、科目担当者案を策定し、適切な教員を配置している。教員配置は、総合政策研究科の教員組織の編制に関する方針に沿って行っている。				
(4) 研究科は該当せず。				

基準6. 教員・教員組織

組織名

総合政策研究科

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

『2023年度 大学院要項』p99-p101「総合政策研究科 履修科目・担当教員・履修方法」

教員組織・教員数 (URL: <https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/kyosyokuinsuu2023.pdf>)

総合政策研究科の教員組織の編制に関する方針

総合政策研究科委員会、総合政策研究科FD委員会議事録(カリキュラム、教務関連)

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 総合政策研究科による教員の募集、採用、昇任等は行わないが、大学院担当教員の任用については、大学院全体の基準として「愛知学院大学大学院教員資格基準内規についての確認事項」を整備している。				
(2) 「愛知学院大学大学院教員資格基準内規についての確認事項」に基づき、研究科委員会にて任用を決定し、大学院委員会にて承認を得ている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学大学院教員資格基準内規についての確認事項				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。 ・教育改善以外に研究の活性化や社会貢献等の教員に求められる諸活動について資質向上を図る取り組みの実施 ※学部及び大学院について、それぞれの内容に特化したFD活動を行っているか、併せてご確認ください。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) ・研究科専任教員全員が研究科FD委員として、ほぼ毎月の研究科委員会にて、FDに関する議題を取り上げ、議論している。 ・FD研究会を開催し、論文指導体制、必修科目・選択必修科目のプログラム内容等を中心に意見交換を行い、2024年度の研究計画、科目シラバスに反映させた。				
(2) ・研究科委員会において、各教員の研究活動、社会連携活動を踏まえて、研究科における教育展開や組織的な社会連携活動に向けた取り組みについて、意見交換を行った。 ・紀要『総合政策研究』において、研究業績・社会業績を公表している。教員Webページにおいて、研究業績・社会業績を公表している。				

基準6. 教員・教員組織

組織名

総合政策研究科

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

総合政策研究科委員会議事録(教務、FD関連、2024年1月・2月・3月)

総合政策研究科FD委員会議事録

2023年度総合政策研究科FD活動報告書(2024年1月開催)

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 研究科委員会にて、毎年各種委員を任命し、活動を推進している。 研究科委員会にて、教員数の確認を行った。				
(2) 研究科委員会にて、毎年度の活動結果を議論し、当該・次年度の活動に活かしている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
総合政策研究科委員会議事録(2023年度委員会名簿、自己点検・評価関連)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	特記事項なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準6」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価	
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A	
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。					
(1) ・政策科学研究所、総合政策学会と共同で学外組織との社会連携、地域連携体制を構築している。 ・学外組織との連携体制構築に向けて、研究科委員会において個々の教員の研究やネットワークを大学院教育や社会連携にどのように活かしてきたか、活かせるかについて意見交換を行った。					
(2) 研究科委員会において、個々の教員の研究や愛知県、名古屋市、日進市、長久手市との社会連携活動を踏まえ、研究科における社会連携・社会貢献を通じた教育研究活動に活用する可能性について意見交換を行った。					
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。					
根拠資料名					
総合政策研究科委員会議事録(社会連携関連、2024年2月・3月)					

点検・評価項目		評価の視点		自己評価	
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A	
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。					
(1) 研究科委員会において、社会連携・社会貢献の適切性について点検・評価を行った。					
(2) 研究科委員会において、社会連携・社会貢献の改善・向上に向けて、本研究科として組織的にどのように推進しうるか、他組織との連携可能性等について検討した。					
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。					
根拠資料名					
総合政策研究科委員会議事録(社会連携関連、2024年2月・3月)					

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
特になし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
②(1)(2)、③(1)(2)	個々の教員の研究やネットワーク等を活かし、本研究科として組織的に社会連携・社会貢献に関する活動を推進していくことが課題である。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
②(1)(2)、③(1)(2)	研究科委員会において、社会連携をテーマとして、個々の教員の研究や実績を踏まえて、評価し、発展可能性の検討を行った。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
総合政策研究科委員会議事録(社会連携関連、2024年2月・3月)	

5. 「基準9」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A